



学校だより

〒952-1311 新潟県佐渡市八幡 2002 番地 Tel 0259-57-2602 Fax 0259-57-2604
<http://yahata-es.sado.ed.jp/> (HPにカラー版の学校だよりを掲載)

米百俵の精神 地域のために協働する人材育成

校長 山崎 勝之

11月22日(火)、Eテレの「先人たちの底力 知恵泉」で「“米百俵の精神” 小林虎三郎」が放映されました。小林虎三郎は、北越戊辰戦争で負けた越後長岡藩の復興を任された人物です。

焼け野原となり、減封で食べるものにも苦勞する越後長岡藩の窮状を見かねた三根山藩が救援物資として百俵の米を送ってくれました。虎三郎は、この米を売り、学校設立の費用に充てようと考えました。藩士は、虎三郎の方針に反対し、米の分配を強く求めました。虎三郎は、「国が興るのも滅びるのも、街が栄えるのも衰えるのも、ことごとく人にある。…この百俵の米をもとにして、学校を建てたいのだ。」(山本有三の戯曲「米百俵」より)と藩士を説得したそうです。

米百俵の資金が活用された「国漢学校」は、学制発布により、現在の長岡市立阪之上小学校、県立長岡高等学校となりましたが、これらの学校からは、連合艦隊司令長官・山本五十六氏等の優秀な人材が輩出されました。

この米百俵の故事は、未来を担う人材教育の重要性だけでなく、育成された人材が力を合わせて故郷のために貢献することを目指したものと伝えられています。

11月23日(水)、八幡小学校を会場にして、「わたしたちの学校」上映会が開催され、150名ほどの皆様が鑑賞してくださいました。この上映会は、PTA、育成会、自治会をはじめとする多くの保護者、地域の皆様のご支援、ご協力により運営されました。運営に携わった多くの皆様のように、**地域のために協働する人材が育つ教育環境づくり**を、米百俵の故事は目標にしているのだと思います。八幡地区には、まさに“米百俵の精神”が息づいています。この精神、協働する姿を子どもたちに伝えることが未来を担う子どもたちにかかわる学校、保護者の務めの一つだと考えます。



小林虎三郎に詰め寄る藩士

八幡町・八幡新町の排水路改修要望にかかわる市の回答について

平成 28 年 5 月 18 日付けで市に要望した排水路改修要望に対して、以下のように回答がありました。



建設課建設係からの回答(対応)

大規模な改修が必要なため、事業化について検討します。

R350 バイパスの横断歩道

国道 350 号線バイパスが 11 月 18 日(金)に開通しました。通学路には、荒城地区が要望していた横断歩道が設置されました。教職員、保護者、民生委員様で横断の指導を続けました。車の通行を見て渡れるようになっています。

横断旗は交通安全協会様から旗立て筒は吉田設備様から頂き、銀杏の会様が設置してくださいました。登下校以外でも使用し、安全に横断できるように指導していきます。押しボタン式信号機の設置は、自治会、PTAと要望していきます。



「みんなの学校」上映会のお礼

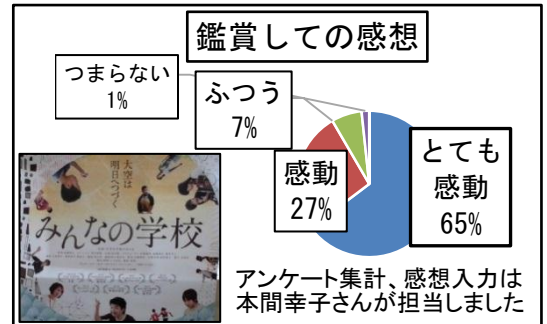
「みんなの学校」佐渡・八幡上映実行委員会
代表 本間 恵

「『みんなの学校』という素晴らしい映画があるから、是非、観た方がいいよ。」と知人から勧められ、「そんなに素晴らしい映画ならみんなと一緒に観てもらおう」と始まったこの企画です。

地域の方々、八幡小学校の協力を頂いて、無事、上映会を行うことができました。午前の部 100 名、午後の部 50 名と、たくさんの方から観に来て頂きました。その多くの方々から、「とても感動した。」と感想を頂き、上映して本当に良かったとうれしく思います。

“障害は病気ではない。障害は個性。その個性を長所にかえるのが大人の仕事” 大人がかかわり、周りの子どもたちを育て、全ての子どもたちが安心して通えるみんなのための学校をつくるためのヒントが詰まった内容でした。大空小だけが特別でなく、どの学校でも何が大事なのが分かれば可能なこと。地域の方々が協力的な八幡小は他の学校より、一步、大空小に近い環境だなどと思っています。まだまだ多くの方々に観て頂きたい！「学び合い、育ち合う」子どもたちの姿を見守れる大人になるにはどうすれば良いかを皆で一緒に考えていけたらと思います。

最後になりましたが、この映画を上映するに当たり、银杏の会様をはじめ八幡の各団体の皆様、八幡小学校の先生方、準備運営等に多大なご協力を頂き、ありがとうございました。心から御礼申し上げます。



- ・映像の中だけのことが全てではないけど、とても人が人のことを想っているのが伝わって素敵だと思った。日々の子どもの生活の中にも活かしたいと思った。（30代・女性）
- ・素晴らしい学校・地域でした。子どもたちも、先生たちも楽しそうで。とてもよかったです。（30代・女性）
- ・会話ができる子には通じるけど、もっと障害が重い子の対応が映像に少なかった。（30代・男性）
- ・本当は、あたりまえで自然なことがうつさされていたんだと思います。でも、感動して、涙が出て……。今、自然なことが自然にできない世の中になっているということのかな……。と思いました。どの子も「あたりまえの子ども」ということを覚えておきたいと思います。（30代・女性）
- ・「自分の学校」「自分＝みんな」「みんなの学校」子ども・教員・保護者・地域の方全てが「愛」と「受容」の心を持っていると感じました。素晴らしい機会を与えてくださり、ありがとうございました。とても勉強になり、嬉しい体験となりました。（40代・女性）
- ・家の子どもの支援学級にいますが、同学年のともだちと関わる事が難しいです。勉強も難しいです。担任の先生も、同学年の子と関われるように支援してもらいたいです。みんなに障害の事をわかってもらいたいです。（40代・女性）
- ・家庭環境や発達の度合いが違っていても、等しく同じ教育を受けられる、同じ経験をすることが得られること、とても意味のあることだと思いました。しかし、これを中・高で続けていくことが難しいのだとしたら、これからの日本の教育の課題だと思います。こういった学校がどんどん増えていくことを願います。（40代・女性）
- ・とても感動しました。佐渡にも大空小学校みたいな学校ができたらよいと思いました。（40代・女性）
- ・「みんなの学校」と言う意味がとてもよくわかるものでした。正直、親としてはとまどう場面や考える事もてんこもりで帰ってからしばらく色々考えてみたいと思います。（40代・女性）
- ・まわりの人の接し方、子ども一人一人の気持ち、自分の出来る事、考えさせられる映画でした。（40代・女性）
- ・2回目でしたが、やはり感動し、学ぶべきところ、真似し、大空小に関わっている全ての大人たち、子どもたちの想いを大事にし、自分たちにできることを子どもたちの成長のために少しでも役立てていきたいです。企画・実行していただきまして、ありがとうございました。（40代・女性）
- ・学校や家庭のみならず、地域でも協力しながら見ることの有難さ。「異端児」とみなさず、クラスで同等に扱っていくことの大切さと難しさも同時に感じる。（40代・女性）
- ・学校の先生や、中学生などに見せたいと思った。佐渡の小さい学校は特別支援学級がないので、みんなと同じ教室にいられて良いと思う。（40代・女性）
- ・皆が知っている。大切なことですね。（50代以上・女性）
- ・ことばでは言えない感動をいたしました。身につまる思いがしました。（50代以上・女性）
- ・私も似たような体験をした事を思い出しました。上映していただいたおかげで前回見逃してしまっていたのでとてもうれしかったです。「ノーマライゼーション」私の内の目標に近づいている気がします。（50代以上・女性）
- ・主催してくださった方々のお気持ちに感謝します。今、佐渡の学校が皆で困っている中、どうやったら気持ちを合わせられるのか、とても納得させられる映画でした。子どもを理解し、お互いに信頼し合い、チームワークをしっかりと作り上げていく（校内、保護者、地域）そのためにひたすら相手信じてコミュニケーションをしに行く（TEL、面会、手紙…）この実践が見事でした！（50代以上・女性）



*一部を抜粋して紹介しております。